

## リンパ節検討委員会報告

於：横浜

日時：2008年7月3日

参加者：森（駒込病院） 橋口（防衛医大） 赤須（国立がんセンター）

固武（栃木がんセンター） 大木（横浜市大） 肥田（近畿大学） 松本（駒込病院）

### 1. 結腸癌における5cm10cmルールについて

現行の5-10cmルールは、やや煩雑であり、理解に時間がかかることから、改善の余地ありという結論に達した。しかし、実際に5cm、7cm、10cm、それ以上の主腫瘍からの距離にどの頻度でどの程度の転移を生じているかについては、はっきりとした論文は以前に近畿大学の肥田の著したものがあるだけである。そこで、次回の研究会までにリンパ節委員会の構成メンバーにより、リンパ節マップを各施設での治癒切除例について記録し、それを持ち寄って討論の材料にすることが決められた。問題は中枢方向への転移と腸管壁に沿った転移が、主幹動脈の流入部位によって異なるのか否か、もし一定であれば従前の定義に近い形で距離の設定を行いたいというところにある。

### 2. 側方転移の3群リンパ節昇格について

側方転移には色々と種類があり、その予後も転移部位によって異なることが報告された。しかし、現状では一律3群で規定して、単純化と国際的な理解度を求めているところであり、このまま症例と統計結果を集積して行くこととした。今後さらに検討を続け、さらに現在行われているRCTの結果も加味して討論を行う。